

「表現の不自由展」展示禁止一覧

作家名	安世鴻（アンセホン）
作品名	重重ー中国に残された朝鮮人日本軍「慰安婦」の女性たち
形態	写真（韓紙にピグメントプリント） 2015年「表現の不自由展」展示作品
制作年	2012年
経緯	2012年、新宿ニコンサロンで予定されていた写真展が、開催1か月前に政治的として中止された。作家が仮処分申請し写真展は実現。作家が提訴し、3年に及ぶ裁判で作家側が勝訴。

作家名	大浦信行
作品名	遠近を抱えて
形態	コラージュ（シルクスクリーン、リトグラフ） 2015年「表現の不自由展」展示作品と同シリーズの別作品（4作品）（前期後期で2作品ずつ展示予定）
制作年	1982～1983年
経緯	1986年、富山県立近代美術館主催の「86富山の美術」で展示された当該作品について、展覧会終了後、富山県議会、地元新聞での批判や右翼団体からの抗議により、同美術館は図録の在庫を焼却し、作品を非公開、その後売却した。作家が提訴した作品公開、図録公開の裁判は、作家側が敗訴。 2009年、沖縄県立博物館・美術館でも展示が認められなかった。

作家名	大橋藍
作品名	アルバイト先の香港式中華料理屋の社長から「オレ、中国のもの食わないから。」と言われて頂いた、厨房で働く香港出身のKさんからのお土産のお菓子
形態	インスタレーション 今回追加作品
制作年	2018年
経緯	2018年、国立新美術館を会場として開催された五美大展において、当作品の箱の中のお菓子が腐敗の恐れありとして、出品禁止された。

作家名	岡本光博
作品名	落米のおそれあり
形態	シャッター・インテイング（シャッターにウレタン塗料） 今回追加作品
制作年	2017年
経緯	2017年、沖縄県うるま市の地域美術展に出品された当作品に対し、自治会長が相応しくないと言ひ、市の判断で封印（ベニア板で覆う）された。その後抗議により、最終日に一日だけ場所を移して再公開された。

作家名	キム・ソギョン、キム・ウンソン
作品名	平和の少女像／平和の少女像ミニチュア
形態	立体（FRPにアクリル彩色／ブロンズ） 2015年「表現の不自由展」展示作品
制作年	2011年
経緯	2012年、東京都美術館を会場として開催された「JAALA 国際交流展」で平和の少女像のミニチュアが展示されたが、政治的表現であり同美術館運営規定に抵触するとして撤去された。

作家名	作者非公開
作品名	9条俳句
形態	俳句 2015年「表現の不自由展」展示作品
制作年	2014年
経緯	市民が作った俳句。さいたま市大宮区の三橋公民館の俳句サークルで第1位に選ばれ、2014年7月の月報へ掲載されるはずだったが、政治的で、議論が分かれる案件の一方の側に立っていないとの理由から、公民館側がそれを拒否。作者は提訴し、2018年、作者の勝訴が確定。

作家名	小泉明朗
作品名	空気 #1
形態	油彩（プリントしたキャンバスにアクリル絵画） 今回追加作品
制作年	2016年
経緯	2016年、東京都現代美術館主催の「キセイノセイキ」展に主品予定だったが、多くの人が持つ宗教的な畏敬の念を侮辱する可能性があるとして、美術館側が懸念を示し、作家との交渉の末、出品は断念。直後に別のプロジェクトにて展示された。

作家名	嶋田美子
作品名	焼かれるべき絵／焼かれるべき絵：焼いたもの
形態	版画（エッチング） 今回追加作品
制作年	1993年
経緯	焼かれる前のものと、焼かれて半分ほどになったものを対になっている作品。さらに、焼いた過程の写真、美術館へ送った灰や文章なども併せて展示。

作家名	白川昌生
作品名	群馬県朝鮮人強制連行追悼碑
形態	立体（布、木、発砲スチロール） 今回追加作品
制作年	2015年
経緯	2017年、群馬県立近代美術館で開催の「群馬の美術 2017」に出品予定だった当作品が、群馬県と設置者が撤去係争中の追悼碑をモチーフにした作品であり、係争中の事件に関わるためとして、展示を取消された。

作家名	趙延修 (チョウ・ヨンス)
作品名	償わなければならないこと
形態	絵画 (キャンバスに油) 今回追加作品
制作年	2016年
経緯	2016年、千葉県美術館を会場として開催された当作品を含む展覧会に対し、千葉市は、地域交流がテーマの作品展で政府批判を展開するのは相応しくないとして、補助金交付を取りやめた。

作家名	Chim↑Pom
作品名	気合い100連発／耐え難き気合100連発
形態	映像 今回追加作品
制作年	2011年／2015年
経緯	海外でのビエンナーレへの参加を打診された際に、主催者から、いくつかの禁止ワードに触れるとして、禁止ワードをぼかしたバージョンで展示。 今回は、オリジナルバージョンと併せて展示。

作家名	中垣克久
作品名	時代の肖像
形態	立体 (竹、紙) 2015年「表現の不自由展」展示作品
制作年	2014年
経緯	2014年、東京都美術館を会場として開催された「現代日本彫刻作家展」で、作品表面を覆うメッセージの中に政治・宗教活動にあたるものがあるとして、一部のメッセージが撤去された。

作家名	永幡幸司
作品名	福島サウンドスケープ
形態	映像・音声 (音で福島の実態を伝えていく試み) 2015年「表現の不自由展」展示作品
制作年	2011年～2015年
経緯	2013年、千葉県立中央博物館を会場として開催された「音の風景」展に出品された当作品の、作家による説明文に、特定の者に対する批判と受け取られる可能性のある表現が含まれ公立博物館としてふさわしくないとして、作品解説のうち、福島大学の学長と執行部の除染対応への批判部分が削除、書き換えられた。

作家名	藤江民
作品名	Tami Fujie 1986 work
形態	版画 (シルクスクリーン1色刷り) 今回追加作品
制作年	1994年
経緯	富山県立近代美術館主催の「86 富山の美術」招待作家の一人。当作品は、図録が焚書扱いされたことを批判する作品で、1994年、富山市主催「ARTEDGE'94」に出品された。

作家名	ー
作品名	マネキンフラッシュモブ
形態	映像 今回追加作品
制作年	2016年
経緯	2016年、神奈川県海老名市は、駅前の路上でのパフォーマンスが、条例に違反しているとして、禁止命令を出し、警告した。モブ側は市を提訴、2017年、モブ側が勝訴し、禁止命令は取消された。

作家名	横尾忠則
作品名	暗黒舞踏派ガルメラ商会
形態	版画（オフセット印刷） 今回追加作品
制作年	1965年
経緯	2012年11月から2013年2月にかけて MoMA で開催された「TOKYO 1955-1970」展に出品された当作品に対し、在米韓国系市民団体が、旭日旗と類似したデザインが軍国主義的なものを思わせると、会期終盤に MoMA へ抗議。作品は会期終了まで展示された。

作家名	横尾忠則
作品名	ラッピング電車の第五号案『ターザンの雄叫び』
形態	写真 今回追加作品
制作年	2011年
経緯	2011年、ターザンの叫ぶ姿が脱線事故の被害者と重なるという声が出かねないと憂慮し、JR西日本は当デザインを採用しなかった。